

# 経友会

## ニュース

第34号

ご質問・お問合せ・メールのご登録は  
大阪市立大学 経友会  
TEL 072-238-9502 (事務局長)  
keiyukai07@sakai.zaq.ne.jp  
http://keiyukai.info

2018(平成30)年3月28日発行

## 第4回 商経講座開講

経友会が商友会と共同で開講して4年目の商経講座を平成29年10月5日～30年1月25日までの間、『大阪市立大学の歴史』講義を含む全14回を開講し滞りなく終了しました。本年度は商友会が主担となり、商学部の教科「ビジネス実践」として田中記念館ホールで開講しました。商経を軸に法理工の卒業生が講師を務める多彩な講師陣で、受講者は商学部108人、経済学部41人、法学部1人の計150人と社会人聴講生が若干数でした。各講義の要点を紹介します。



田中記念館ホール

### 1. 大阪市立大学の歴史的経緯と地域社会との関係

中瀬 哲史氏 (本学大学院経営学研究科・商学部教授)

中瀬先生は、本学の源流である大阪商業講習所が明治13年大阪財界と五代友厚らの尽力で設立されたこと、さらにこの講習所が市立の大阪高等商業学校となった経緯を説明された。次に、昭和の初頭に大阪経済の発展と大大阪の都市基盤作りが進展する中で、昭和3年地方自治体初の大学設置が認められて大阪市が高等商業学校を大阪商科大学へ昇格させたこと、その際に関一市長が表明された建学の精神となる有名な言葉、「国立大学のコピーであってはならぬ。」を紹介され、本学は大都市に必要な精神文化の中心的機関であることや大阪市を背景とした学問の創造という理念について説明された。

次に昭和24年大戦後の大阪市最初のビッグプロジェクトとして、商科大学、市立都島工業専門学校、市立女子専門学校、市立医科大学が統合されて大阪市立大学が誕生した経緯を詳述され、昭和44年～45年の大学紛争についても触れられた。

最後に本学卒業生の伝統の重みは最古の源流を持つ商学部、経済学部にとって重大であると、「古くして古きもの減ぶ、新しくして新しきものまた減ぶ、古くして新しきもののみ永遠不滅」との格言を示され、市大らしさ、アイデンティティを確認することが大事と締めくくられた。



### 2. メディアを動かし、社会で活かせる働き方のツボ

西田 二郎氏 (平成元年 経済学部卒)

読売テレビ(株) 編成局編成企画部長

西田氏は初めに氏の同僚らが作った動画を使って11PMはじめ人気番組の制作、演出に携わってきた自身の経歴を紹介され、これほど楽しい仕事はないことや、市大卒業生にマスコミ畑で働く人が少ないことなどを話された。そして進路に迷い、悩む人たちには自分は何に向いているのかよりもまじめにやっていたらどこかで拾われる縁にめぐり合うものだと言われた。またこれまで取り組んできた番組制作での数々の体験から、仕事を通じて成長していく上で大事なことは、現在ある環境や条件を受け入れてプラス思考を持ち、今あるものを活かす「まかない感覚」を持つことであると説かれた。

最後に社会に出て役立つために必要なこととして、①ヒットは偏差値感覚(知の集積)からは生まれない、世間・常識を超えた感覚で頭を使うこと ②年長の人たちと世代を超えて話し合えるコミュニケーション力を養うこと ③先輩、年長者に対しては愚痴の前に好きになる努力をする ④いい結果が出ないときは決して諦めずに自分の能力を信じて一から考え直すこと一という言葉に熱く語られた。そして人生に勝ち負けはない、ベストセラーよりロングセラーを目指すこと、負けなければ良し—社会とはそんなもので、これが経営者・リーダーに求められる資質であると説かれた。



### 3. ホンダと車開発について（シビックとともに）

伊藤 博之氏（昭和41年 工学部機械工学科卒）

（株）本田技術研究所社友、元同社常務取締役、元ホンダR&DヨーロッパU.K.代表取締役社長



伊藤氏は初めに本田技研工業(株)に入社、程なく(株)本田技術研究所に転属して初代シビックの開発チームに入り、後年には経営に携わるがそれまでは6代目シビックまで一貫してシビックの開発に携わってきた経歴を話された。そしてこの会社の特色は、車製造の企画・開発は(株)本田技術研究所で行い、製造・販売を本田技研工業(株)が行うという他に例を見ない別会社方式を採っていることにあり、車の売上額の3%が研究所に割り当てられていたことを説明された。

次に初代シビックが開発された時代の背景や要求される性能、そのコンセプトの打ち出し、さらに2代目以降の車の性能や新技術の開発等について特色を詳細に説明された。そして新車開発における思想に関しては並行異質競争という考えがあつて“売れる車”より“売るべき車”を追求することや、また「あくまでも実践的」、「喜びと悲しみを浮き彫りにする人間集団」など開発現場で重視している諸事項を説明された。

またシビック4代目で20年を経過し5代目の開発に当たって、「誰に車を売るか」等の議論とコンセプトの確立などについて、シビックは90年代の若者像と10年先を見通したところに焦点を当てて“シビックは若さそのもの”とし、そこから年代を経るごとに上級志向を目指すというのがホンダの原点である一とイメージ戦略を説明された。

### 4. 熱き挑戦者であれ～ 300年企業のイノベーション

相良 暁氏（昭和58年 商学部卒）

小野薬品工業(株) 代表取締役社長



相良氏は、新薬開発は基礎研究から新薬が世に出るまで9年～17年の年月と500～3,000億円の開発費を要することや、新薬の誕生は僅か3万個分の1個に過ぎない高いリスクと地道な努力を要する事業で開発費の対売上高比率は他の業界より極めて高いこと、また薬価は国が決めるという製薬業界の特色を説明された。

また、感染症に苦しむ発展途上国や高齢化が進む先進国では新薬の誕生を待ち焦がれている状況があり、製薬は厳しい環境にあるがやりがいのある事業であることや、製薬研究には一定の企業規模は必要だが新薬創出の成功の如何は研究開発資金額の多寡でなく研究の質に懸かっていると語られた。

次に国民健康保険制度の施行以後、大衆薬から医療用医薬品へ転換を図る中で、命運をかけて後にノーベル賞を受賞する研究者たちと脂質代謝を改善するプロスタグランジン（PGs）の研究に着手し、1973年以降次々とPGs関係医薬品の開発に成功して会社再興を果たしたこと、またこれにより4,000億円の金融資産と何万個の研究シーズが財産として残ったこと、そして世界から学ぶことの重要性和愚直に汗をかくことの大事さを学んだとも語られた。こうした経過と今日画期的なガンの治療薬として登場したオプジーボの開発と免疫療法の確立までの苦労を話された。

### 5. What is driving US Solar Buz?（何が米国ソーラー事業を推進しているのか？）

寺川 幸之氏（昭和60年 経済学部卒）

GROX CONSULTING Advisor, KTMI 24 Energy INC. Chief Business Development Officer, 元パナソニック エコソリューションカンパニー副社長



寺川氏は米国のソーラー市場について、2016年のソーラーシステムの設置容量は14.8GW（ギガワット）で累計設置容量が42GWに達したこと、2010年以降の平均伸び率は59%となり、ソーラーシステム新規設置の発電量が39%を占めてガス発電の29%、風力発電の26%を超えてトップ立ったことなど近年の概況を説明された。

次にアメリカにおけるソーラーシステムの伸展に大きな契機となったのが、オバマ大統領時代に施行された、税金を収める代わりに保有活用の特別会社（有限会社）に投資すれば投資額の30%相当の連邦税が還付されるというITC（Investment Tax Credit）制度であつて、この会社が電力会社などと電力販売契約を結んで投資家に利益還元されることでソーラーシステムが普及したことを説明された。また、地方の公共団体がCommunity Choice Aggregationと呼ばれる事業体を作って、地域住民や農場・工場、電力・ガス会社にエネルギーを供給する新しい方式が普及していることや、病院や大学、IT企業や軍の基地などが節電策として、またテロ対策として自らソーラーシステムを導入している状況を説明された。

終りに学生たちに自身の長年の米国在住の体験から、興味ある物の実物を見ること、そして興味ある物から時代の変化を読み取るよう心がけられたいと話された。

## 6. りそなグループのCSVプラットフォーム REENAL (RESONA+REGIONAL) ～はじまりのはじまりをいっしょにつくる～

藤原 明氏 (平成4年 商学部卒)

りそな総合研究所 リーナルビジネス部長



大和銀行に入社以来“銀行を変えたい”を生涯の目標としたこと、平成15年に3兆円を越す公的資金の注入を受ける危機に見舞われたことなどを説明されたあと、トップの命を受けて新しい銀行像を創る取り組みに参画し、今日まで15年間にりそな銀行の地域活性化プロジェクト“REENALプロジェクト”を主導してきたことを紹介された。

新しい銀行像を創るに際して課せられた3つの条件①金をかけるな②企画した者が最後までやれ③担当役員の権限の範囲で何をやっても良いとの命を受けたことが、「自ら考え、自ら行動する」の自立・自律の精神を培うことに繋がり、FM802局と協働してりそな銀行キャッシュカードの券面に無名アーティストの作品を登用したのを皮切りに地域や商店街、中小企業との協働で500を数える活性化プロジェクトを立ち上げてきたこと、その成功は近江商人の格言“三方よし”に連なっていると説明された。

またこれらの事業を通じて得た教訓として、協働とは足らざるところを補い合ってプロジェクトを推進することであり、活動の成果を形で見えるようにするのが会社上層部を動かす要諦であると語られた。そして事業を進めるに上で「協働する」考え方は必ず役立つと事例を挙げてその進め方、ノウハウを詳述され、これを覚えるよう奨められた。

## 7. 株式投資の魅力について

大川 英男氏 (昭和57年 経済学部卒)

東海東京証券株式会社 副社長



大川氏は初めに株式誕生の歴史と株式発行市場・流通市場・証券取引所の果たす役割について基礎的な事項を簡潔に説明されたあと、日本や諸外国の株価指数や株価変動の要因、株式投資の魅力等について詳しく述べられた。

次に1970年代以降の日本と世界の経済政策の変化、社会事象・事件等とそれらに連動して日経平均株価やNYダウ平均株価が変動していることをチャートにして時系列で説明され、株価の推移は社会と経済の動きを反映していることを示された。

次に株式を評価するにはPERはじめ種々の株価指標があることについて解説され、多面的に株式(会社)の評価がされることや、また株式投資の最大の魅力は長期投資でどれだけ会社の成長性を見るかにあり、30年先を見据えて良いと思う株式を少しずつ買うことにあると話され、これを機に株式などの投資を体験して欲しいと語られた。

最後に日本の個人金融資産は1,820兆円あり、その大部分は高齢者が所有していること、またその51%超が銀行預金であって欧米に比べて投資比率が極めて低いことを示された。そして低金利・高齢化時代の下では日本は将来に向けて新しい産業を興して成長を図ることが不可欠で、この資金が相続で若者に移ったときには貯蓄より投資を増やすことが重要であると強調された。

## 8. 年金の仕組み～年金運用の仕組みを考えてみよう～

水野 弘道氏 (昭和63年 法学部卒)

年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) 理事兼CIO (最高投資責任者)



水野氏は日本の年金の仕組みは国民年金と厚生年金・公務員共済年金等(2階部分)、そして企業年金の3階建てとなっていて、GPIFが運用するのは国民年金と厚生年金の積立金であると概念図でわかりやすく解説された。また年金加入が国民の義務であり生活設計に重要であるにも拘らず学校では教えていないことに言及された。

また日本の公的年金は積立方式でスタートしたが積立金不足から賦課方式(世代間扶養)となったこと、政府の年金財政制度設計は100年後を視野に入れたものとなっていることや、その中でGPIFが現役世代の保険料負担が急増しないよう年金積立金の運用が期待されていて現在150兆円の運用を行っていることを詳述された。

次にGPIFは、①長期的な観点からの投資②資産・地域・時間等を考慮した分散投資③基本ポートフォリオ(金融商品の組み合わせ)の策定④スチュワードシップ責任(機関投資家の行動規範、受託者責任)を果たす取り組みを投資原則とし、運用実績は平成13年以降の収益利率は年率3.20%、収益額が62.9兆円であること、また平成13年度～平成29年度上半期までの運用資産総額が156兆8,177億円、また利子・配当収入が毎年約2兆円あることを示された。また幅広いステークホルダーとの協働を目指すことが機関投資家のグローバルな潮流になっていると説明された。

## 9. ビジネスキャリアとチャレンジスピリッツ

三谷 英司氏 (昭和51年 経済学部卒)

ウィルシップ㈱代表取締役、元オリックス㈱常務執行役、元同顧問

三谷氏は初めに、米国留学時に事前に特訓を重ねてきた英語が当初ほとんど通じなくてディスカッションができなく勉強に苦勞したことや、クラスメートとのコミュニケーションのとり方などを大変苦勞して体得したことを披露された。

次にオリックス入社後の経験の浅い自分に上司が融資事案の可否判断について現場の意見を尊重してくれたことに発奮し、やる気を出して仕事に精進するようになったことや、不良債権の処理で大きな赤字が生じた時に当時の上司がミスをしたことよりもどうリカバーするかが問われるのだと諭してくれたことに感銘して、こんなリーダーになりたいと心に誓ったことなどを話された。

また、オリックス自動車㈱の社長時に業界初のカーシェア事業を始めたが成果が上がらず、これが後年カーシェアに関する社会意識が高まって事業が好転したこと、このときに留学時代の経験が生きて海外の社長らと意見交換できたことが大変役立ったこと、また成績不振の支店に赴任して社員の意識改革に取り組み、社員と共に苦勞したことが今日独立後も大切な人脈となっていることなどを語られ、人生は人との出会いという縁を大事にすべきことを強調された。また学生たちに人格を育むために書物を読んだり、いろいろの分野で造詣の深い人と交流を持つことに努められたいと語られた。



## 10. インターネットがビジネスを変える～大阪ガスの社内ネットビジネスの事例～

福嶋 幸太郎氏 (昭和58年 商学部卒)

大阪ガスファイナンス㈱代表取締役社長 元大阪ガス経理業務部長

福嶋氏は販売量・売上高で東京ガス㈱に続く全国第2位の地位にある大阪ガス㈱の概要を紹介された後、2000年に事業開発部で特命を受けて日本初の本格レシピサイト「ボブとアンジー」や、大容量のファイルを転送サービスする「宅ふぁいる便」の事業化に携わったことを通じていろいろの体験や考えられたことを語られ、当時様々のベンチャー企業が消長している情勢を見てWebはあくまで事業運営のツールであり、これにどのようなビジネスを乗せるかが重要であると指摘された。またIT化の進展によって生まれた新しい事業を業態ごとに分類し、それらのビジネスを広告モデル・有料課金モデル・ECモデル（電子商取引モデル）に分けて詳しく解説された。

次に「ボブとアンジー」や「宅ふぁいる便」事業からネット事業を振り返って、ネットビジネスは、盛衰が極めて早く、技術や時代の流れをいち早くつかんで対応を考えないと生き残れないという厳しい世界であることを説明された。最後にベンチャー起業について、独立系と社内起業系とを比較され、前者はハイリスク・ハイリターン、後者はローリスク・ローリターンということがあるが、独立系では倒産した場合は自己破産となって再起が困難になることもあるので、独立を考える人は一旦会社に入って事業や経営について勉強してからするのが賢明であると話された。



## 11. グローバル人材育成～公認会計士の視点から～

牧 美喜男氏 (昭和48年 商学部卒)

摂南大学客員教授、公認会計士

牧氏は、会計・監査業界の大きな動きとして2001年に不正会計が発覚し倒産した米国の大手総合エネルギー企業社、2002年に同様に不正会計で倒産した大手電気通信企業社の事件の概要について説明され、事件の背景として会計事務所の収益が本来の会計監査業務よりもコンサル業務に重きをおく形になってきたことに問題があることを指摘され、監査とコンサル業務の二律背反について説明された。またこの事件を受けて2002年企業会計の改革・投資家保護を目的としたSOX法が成立し、さらに監査上の問題の報告が重視されるようになった一連の改革について説明されたあと、重要なことは不正を見抜き指摘できる勇気を持った人材の育成であると語られた。

次に日本は戦後輸出中心に伸びてきたのが1984年のプラザ合意のあと大手メーカーが海外生産にシフトしたことや、現地での外国人幹部社員の登用や本社の外国人役員の登用状況を説明された。そして国際化の新たなフェーズの特徴として、世界で通用する経営能力、海外に密着した経営上の意思決定、現地での高度人材の確保、現地社員や日本人派遣者の育成、そしてグローバルな人事・処遇制度の確立等の課題に直面していることを詳しく解説された。そして学生たちにグローバル社会に求められるマネージャー像、リーダーに必要な資質等について熱く語られた。



## 12. 神戸市の産業政策とまちづくり

梅村 晋一氏 (昭和55年 法学部卒)

神戸市人事委員会事務局長

梅村氏は、神戸の歴史は古くてその起源は平清盛の福原遷都と大和田の泊りの築造まで遡ること、そして1868年に神戸港が開港し、海外交易で港を中心に国際都市として発展してきたことから、今日の神戸のまちや神戸文化・産業の礎は神戸港にあることを紹介された。次に高度経済成長期に神戸市は外債発行で資金を調達し、自ら開発者となって住宅や工業団地を造成分譲、その掘削土砂で港湾を埋め立ててポートアイランドを造成し、コンテナヤードなど港湾施設の整備、産業の近代化を実現したこと、その手法は株式会社神戸市と言われ全国から注目されたことを説明された。

次に1995年の大震災発生後の復旧に巨額の投資を行って赤字再建団体寸前となるまでに財政が悪化したこと、その後大規模のリストラで危機回避できたことなど、苦難の歴史についても語られた。また復興事業計画の中から神戸医療産業都市構想が生まれ、ポートアイランド2期事業で理化学研究所の再生医療と協働する市の眼科専門医療センターや先端医療センターの整備など先端医療拠点整備が進んでいて関連企業・事業所334社の進出と9,200人の雇用が創出されたことを詳しく説明された。最後に未来創造都市の実現について、5号湾岸線の西部への延伸、都心三宮の再開発、食都神戸構想はじめ夢のある計画構想を説明された。



## 13. 富士フイルム(株)での新規事業企画・マーケティング

天生 聡仁氏 (平成20年 理学部卒、平成22年研究科修了)

富士フイルム(株)高機能材料開発本部兼R&D統括本部 高機能材料マーケティングチーム

天生氏は、長年フィルムメーカーとしてトップの座にあった富士フイルムは世界初のデジタルカメラを開発したがデジタル化の急速な進展の影響を受けて、フィルムの製造販売をメインとする売上が2000年をピークにそれ以降急激に減少し、コアビジネス喪失という危機に直面したこと、またその後はフィルムで培った技術・シーズをもとに写真関連製品・サービスなどの分野、X線画像をはじめとする医療画像診断システムなどヘルスケアの分野、パソコン・スマートフォン等のフィルムや液晶の材料など高機能材料の分野で発展してきたことを説明された。

次に研究所勤務時代にインクジェットプリンターの開発に取り組み、製品を完成させたものの商品化に至らなかった苦い経験を活かして、マーケティングチームによってヘルスケアの原材料を他社で実用化・販売する方法を実現したことから自分の思いを発信することが大事であると強調された。また高機能材料開発本部における新規事業の創出システムについて、営業リーダー・トランスリーダー・プロモーターがそれぞれの役割で連携協力することにより顧客のニーズと自社のシーズが結びつき事業化すると図式で解りやすく説明された。最後にオムロンの創業者立石一真氏の言葉で企業の存在意義を問う言葉を紹介し、「人も企業も実現したいことがあるから生きている」と語られた。



## 14. トヨタ自動車(株)の社会貢献としての豊田工業大学

渡部 教行氏 (昭和51年 経済学部卒)

学校法人トヨタ学園常務理事・事務局長、元Toyota Technical Center USA, Inc. 副社長

渡部氏はトヨタ自動車(株)の沿革に触れる中で、トヨタの社会貢献の精神は豊田自動織機の創業者豊田佐吉の「モノづくりを通じて人々の幸福を願う想い」が継承されて企業文化となっていること、そして自動車作りを通じた社会貢献に加えて環境・交通安全・人材育成の3つの分野を柱とし、さらに世界各地域で社会文化の分野を加えて豊かな地域社会の実現に向けた活動に取り組んでいることを説明された。

次に、人材育成分野での重点事業として昭和51年に創立された豊田工業大学の教育の特色は、実習・実験重視の工学教育、創造性開発教育、分野横断型の基礎教育、寮生活と教養の充実による人間力の育成、国際性の涵養など小規模な塾的大学の良さを活かした独自教育を行うことにあり、さらに工業大学には企業のモノづくり現場は不可欠であるとしてインターシップなど体験的学習を重視していることを挙げられた。また本大学は広い学識・視野・協働力に加えて将来を拓く先見性・想像力を備えた士(サムライ)型人材の育成を目指していること、また本学の院生や広く国際的に留学生を受け入れるためにシカゴに大学院大学を設置したこと、また今後の指針として小規模な塾的大学の良さを伸ばして、AIや太陽光発電、光通信の研究などの分野に集中して研究力を向上させていくことを紹介された。



# 第16回ホームカミングデー 記念講演会

毎年、経友会と商友会が共催で開催しているホームカミングデー記念講演会を本年も11月3日午後、全学同窓会総会に引き続いて10階大会議室で開催しました。本年は経友会が担当して講師に大阪歴史博物館館長 栄原永遠男先生をお招きし古代大阪の難波宮発掘調査の成果から明らかになった大化改新についてのお話を聴きました。講演が進むにつれて熱く語られる先生のお話に取り込まれ、古代難波宮に関する多くの知見を学ぶことができました。ここでは要点を編集してご紹介します。

## ◇難波宮発掘調査と大阪市立大学の関わり

難波宮の発掘調査は昭和29（1954）年に、古代日本の都の発掘調査としては早い時期に始まりました。発掘調査は大阪市立大学の山根徳太郎先生\*1が中心となり、本学から大勢の学生ボランティアが協力して進められました。発掘開始から60数年経ちますが、学会では難波宮発掘調査が大阪市立大学と深い関係を有することは誰もが知る事柄です。

### \*1 山根 徳太郎 教授（明治22年～昭和48年）、

昭和3年 大阪商科大学予科教授、

昭和24年 大阪市立大学法文学部教授、昭和27年 同大学退官後、難波宮発掘を始める

昭和36年 後期難波宮の大極殿跡を発見



大阪歴史博物館 栄原 永遠男館長

## ◇発掘調査でわかった重要なこと

〈重なり合う二つの宮殿跡〉

中心線を揃えてほぼ重なり合う形で時期を異にする二つの宮殿遺跡が存在する。

### ①後期難波宮の遺構

奈良時代の中頃に聖武天皇が造営した宮殿。基壇を作り、礎石を置いてその上に柱を立てる構造（礎石建ち建物）を有している。これは重い建物の重量に耐えられる構造で、瓦葺であることを意味する。基壇や礎石、瓦等が出土して発掘初期にはこちらが注目された。

### ②前期難波宮の存在

地面に穴を掘って柱を立てる（掘立て柱建物）で、基壇も礎石もなく重い重量に耐えられない構造。当初はなかなか検出できなかったが科学の進歩により土の色の違い等で見分けることが可能になった。法隆寺の発掘調査で掘立て柱遺構の発掘手法を修得された本学の浅野 清理学部教授が調査に参画、掘立て柱の遺構があることを指摘された。以降、前期難波宮の遺構が次第に分かって全容解明へと進展していく。

## ◇前期難波宮の概要

掘立て柱で瓦なし、建物がほぼ全焼しています。日本書紀686年 天武天皇の最晩年に難波宮が全焼した記述があり、この記述が事実であることを遺構発掘で裏づけられました。問題は前期難波宮が造営されたのはいつかということで二つの説があります。

### ①686年の直前、天武朝の頃とする説 ②7世紀中頃、大化改新の頃とする説

・初めの頃は①の説が強くて現在も若干存在しています。

（根拠）前期難波宮の構造が694年に造営された藤原宮に似ていること、またこれを7世紀中頃の飛鳥板蓋宮や飛鳥岡本宮に比べるとその構造様式は時代的に早くて突出していること。

・現在では②の説が大勢を占めていて、私もこれを支持しています。

（根拠）ア. NHK放送会館建設時に重要な年代がわかる土器が出土した。これが7世紀中頃の土器であること。

イ. 大阪府警本部庁舎建替え時に、難波宮跡から大化4年に相当する木簡が出土したこと。

## ◇難波長柄豊崎宮はどこにあったか

日本書紀に書かれている難波長柄豊崎宮はどこにあったかということが長らく議論されてきました。二つの説がありました。

### ①低地説 現在の大阪市北区で、長柄、豊崎という地名が残る。

②台地説 上町台地の先端部。旧陸軍大阪八連隊敷地跡から古代瓦が出土。山根先生はこれに着目して、発掘調査に着手し難波宮の所在を突き止められた。古代地図に照らし合わせると長柄豊崎宮は台地の先端部に造られたことがわかる。これによって低地・台地論争に終止符が打たれた。

日本書紀に646年大化元年頃に難波長柄豊崎宮を造ったという記述があります。前期難波宮の造営が7世紀中頃まで遡るということは、前期難波宮造営の時期と難波長柄豊崎宮造営の時期が一致します。即ち、前期難波宮は難波長柄豊崎宮であると考えてよいと言えます。

## ◇前期難波宮が難波長柄豊崎宮であることの意味

前期難波宮が難波長柄豊崎宮であるということは、7世紀中頃のの大化の頃に壮大な宮殿が造られたということで、このことは非常に重大な意味を持っています。なぜならそれは大化改新の研究、ひいては律令制の研究に決定的な影響を及ぼしたと考えられます。

1960年代に日本書紀に書かれている大化改新はなかったとする大化改新否定論が出てきました。それは、のちの天智・天武・持統天皇の出来事を日本書紀の編者が数十年遡って書いたものであるという論で、関西の研究者に支持者が多かった。これによって律令制の始まりは天智天皇の時代であるという考え方がありました。

前期難波宮の発掘調査でその造営時期は7世紀中頃であるとはほぼ決着しました。すると日本書紀の記述に信頼性が高まり長柄豊崎宮を舞台に大化改新に近いことがなされたのではないかと想像できます。さらに日本の律令制\*2の始まりは大化改新だということになります。

次に律令制がどのようにして取り込まれ成立してきたかを考えるキーポイントが前期難波宮です。

\*2 奈良時代は律令という基本法令に基づいて政治が行われ、この律令制は近世まで続いて明治維新政府の太政官制度まで影響を及ぼした。

## ◇前期難波宮とはどういうものなのか

前期難波宮はそのエリアが大きく3つのブロックに分かれます。

中央地区、西方地区、東方地区と性格の異なる三つのブロックから成り立っています。

- ①中央地区 北に天皇がいる内裏があり、その前に内裏前殿という巨大な建物がある。さらにその前に内裏南門という巨大な門がある。そして門の前に広大な広場があってこれを朝庭といいます。(以下、省略)
- ②西方地区 現在、倉庫群の上に歴史博物館が建っていてNHKビルとの間のアトリウムの床下に地下の遺跡が保存されています。(以下、省略)
- ③東方地区 塀で囲まれた沢山の空間が存在する地区です。その東側だけが少し変わっていて真ん中に大きくて立派な建物があります。注目して欲しいのは、東西方向に建物があり、その北側に倉庫があってその前に南北に細長い建物が2棟あるこの区画です。この形式の区画が少なくとも2箇所あります。これは役所です。奈良時代以降の地方の役所の発掘調査が沢山行われていますが、その役所の建物と同じコの字型に配置されています。

#### ◇重要な意味を持つ東方地区

三つの地区の中で私が最も注目するのは東方地区で非常に重要な地区と考えています。

それは役所と思われる区画が存在していることで、これがなぜ重要かという、役所があるということは役人がいるということ、役人がいるということは官僚機構ができてきているということです。この遺構は大化改新のものであるから大化年間に役人の組織ができてきたということ、これが重要なことなのです。なぜ役所や官僚機構の存在することが大事かという大化改新以前と比べて考えてみるとよく分かります。

#### ◇律令制と氏集団制を比べるとどこが違うか。

大化改新以前では、宮廷での仕事というのは、蘇我氏、物部氏などの氏単位で行われていて、大王を中心に技能を持った氏集団が寄り集まって大王に奉仕している状況です。このように氏を基本にすべてが動いていた時代でした。氏の独立性が強くて統制が取れていない。ある氏の担当する仕事以外のところにはその氏は関わりを持たないという非効率な状況でした。

律令制ではいろいろな氏から出てきた人が集まって一つの仕事をし、それが役所です。氏に任せきりの体制から様々な個人が一つのところに集まって仕事をし体制へ切り替わっていく、そのことによって効率化を目指す動きが出てきました。一つのところに集まって仕事をするには集まること、役所が必要となります。

役所的な建物があるということは、そこで働く人々の集団、つまり官僚集団があるということで、その官僚集団は前時代の氏集団のようなものではなくて個人が出身して仕事する人々の集まりということです。氏の時代から少し進歩した律令制の時代に転換していくことを示しています。

#### ◇役所の遺構を持つ意味

前期難波宮の段階で恐らく役所と見て間違いのない区画が存在していた。しかも7世紀の中頃のもの。つまり前期難波宮の段階で官僚制というものが出てきたらしい—ということはこの遺構は示しています。そうすると、大化改新という改革を通じて役人を作り出す体制が出てきた。今までの氏集団とは違う原理で仕事をしていく、そういう体制に転換してきたのが大化改新ではないか、というように議論が展開してきました。大化改新というのは官僚制の出発点に当たらしい。官僚制というのは律令制によって作りだされたのであるから、結局、大化改新というのは律令制の出発点になるのではないかと展開してきました。

日本書紀によると、大化改新の頃にいろんな事をしたと書かれています。これを証拠で裏付けないとそう簡単には飲み込めない。その突破口がこれに当たるということになります。役所が存在すると官僚制というものが大化の頃に動き出したということが分かってくる。するとそれ以外に書かれていることもやはり大化の頃に行われたのではないかと考えられます。

#### ◇今後の研究課題

ここまでお話ししてきたことは、要するに大化改新否定論は成立しないと同時に律令制の始まりが天智天皇の時代という考え方も成り立たない、律令制の始まりは大化改新でよい、ということになってきているというのが現在の状況です。ただし、どういう律令制であったかという問題を考えないといけない。律令制は中国で3世紀の頃から始まっていて3~7世紀の間に発展してきました。そのどこを採り入れたかが大事です。大化の頃に律令制が始まったとしても、それはどういった律令制だったのか、非常に原始的な律令制である可能性が高い。それが発展してきて奈良時代に整備された律令制となっていくというふうには考えないといけない。

前期難波宮によって大化改新が再評価されましたが、単に昔の大化改新を肯定する説に戻ったのではなくて一段階上についている。それがどういった律令制か、どのように奈良時代の律令制まで展開していくのか、そこを考えると現代の研究の焦点になっています。

大化改新というのは理想的な側面が強いと考えられるので、7世紀の中頃大化改新時に前期難波宮というすごく立派な宮殿ができたけれども、その中でどういった政治が行われたのかということを知ることが、今後すごく必要になってきたということになるわけです。

#### 【まとめ】 前期難波宮がなぜ重要か

前期難波宮の造営は7世紀中頃であるということが現在ほぼ確定しつつあること、それは大化改新の時に造られた難波長柄豊崎宮に相当することです。造営時期の確定によって前期難波宮は難波長柄豊崎宮ということになった。そうすると難波長柄豊崎宮という立派な宮殿ができて、その宮殿で行われた政治というのは一体どういった政治であったのかということを知ることが必要になってきました。

なかなか遺構だけでは分からないけれども、その突破口になったのが東方地区の東区画から出てきた役所と思われる遺構の存在です。そのことから少なくとも大化の段階では役人の組織というのができていたらしい。多分、それに連動して日本書紀に書かれているその他の改革も行われていた可能性があるということです。

山根先生によって始められた難波宮の発掘調査というものがいかに決定的な役割を果たしているかがお分かりいただけたと思います。この調査によって、ある意味では日本の律令国家にいたる流れの定点が一つ決まってきたということになります。そういう重要な発掘調査が大阪市立大学の教員、学生によって進められたということは大阪市立大学に関係する者は誇りにしていいと思っています。

#### さかえはら 永遠男先生 プロフィール

昭和21年 東京生まれ。まもなく大阪に移る。昭和44年 京都大学文学部卒業

昭和49年 同大学文学研究科単位取得退学 昭和56年 大阪市立大学文学研究科助教授

平成5年 「奈良時代流通経済史の研究」で京都大学文学博士号取得

平成6年 大阪市立大学文学研究科教授 平成22年 大阪市立大学退任、名誉教授となる。

平成23年 東大寺史研究所長に就任、平成26年 大阪歴史博物館館長に就任、ともに現在に至る。

# 経済学部創立70周年記念事業募金について

明治13年（1880年）創立の大阪商業講習所を源流に持つ大阪商科大学は、昭和24年（1949年）4月に商、経、法文、理工、家政の5学部を有する新制の大阪市立大学として発足しました。その後も医学部の統合などを経て名実ともに国内有数の総合大学として発展し、幾多の卒業生を送り出してわが国の社会・経済・文化の発展に寄与してきました。

現在の経済学部が創立されて来年の2019年には創立70周年を迎えますが、経友会ではこれを記念する事業を行うために、皆様に募金をお願いいたしましたところ多額の寄付をお寄せいただき、ありがたく感謝しています。具体的な事業計画は本年4月に経済学部の先生方のご協力も得て記念事業委員会を立ち上げて進めてまいります。

私たちはこの機会になお今後とも経友会の財政基盤を強化して、経済学部支援と合わせて会員の親睦と文化に資する事業を継続していきたいと考えています。

つきましてはこの募金は2019年まで続けてまいりますので有志の方にさらなるご支援をくださいますよう、よろしくをお願いいたします。

募金くださいますかたは、前回お送りしました振込票をご使用いただくか、または郵便局備え付けの払込取扱票で下記の口座にお振込くださいますようお願いいたします。なお、「通信欄に70周年記念事業募金」とご記入をお願いします。募金は1口1万円です。

銀行名 ゆうちょ銀行 記号 00920-4 番号 58834  
口座名 大阪市立大学経友会

事務局担当 出原康雄 TEL 072-238-9502 (自宅)  
E-mail keiyukai07@sakai.zaq.ne.jp

## ◇募金集計

(平成30年2月末現在)

募金者数 127人 募金振込額 2,560,000円  
募金収入額 2,544,280円 (送金手数料15,720円を除いた額)

## 70周年記念事業募金 募金者一覧

(敬称略)

卒業年	氏名	卒業年	氏名	卒業年	氏名	卒業年	氏名	卒業年	氏名
S28	上羽 宏	S32	矢野 高安	S36	堤 憲幹	S40	宮崎 憲司	S48	篠原 正人
S28	片山 政道	S33	植村 保司	S36	谷川 宗隆	S40	山田 義信	S49	奥野 俊治
S28	建部 好治	S33	大谷 整一	S36	丹羽登志雄	S40	山下 秀夫	S49	瀧川 実
S28	中家 隆造	S33	柏木 敏治	S37	寺田 正博	S41	齋藤晃一郎	S50	松浦 康裕
S28	若林 健介	S33	上村 正昭	S37	柳田 健	S41	関 克彦	S50	有田 正文
S29	石井 寛治	S33	三上 陸	S37	宮澤 博臣	S42	出原 康雄	S51	深山 一清
S29	河野 延雄	S34	峯 博	S37	八代田次郎	S42	福島 由堯	S51	宮本 岩男
S29	山口 暢一	S34	森川 継雄	S37	工藤 治夫	S43	奥田 重隆	S51	浦塚 健策
S29	河崎 清	S34	上田 武雄	S37	坂 弘志	S43	天野 元良	S52	神藤 敏文
S29	市口精一郎	S34	西尾 雅一	S37	菅野 吉昭	S43	福家 学	S52	上田 俊次
S30	横山 修一	S34	小川 宏	S37	陸野 桂	S43	広岡 尚	S54	二口 隆洋
S30	木村 陽吉	S34	濱口亀三郎	S37	野崎 充亮	S43	木野比佐司	S54	羽鳥 敬彦
S30	皆川 宏子	S34	増尾 穰	S37	南部 昌弘	S44	小寺 輝久	S54	植田 健三
S30	龍口 篤夫	S34	高田 直彦	S37	藤田 吉之	S44	加藤 浩史	S54	炭山 明弘
S30	宇野 實	S35	林 昌夫	S37	佐藤 博之	S44	寺田 栄造	S54	市川 正純
S31	古賀 仁	S35	板垣 望	S37	村井 節男	S44	牧野 忠廣	S57	大野 卓哉
S31	石川 健夫	S35	吉川 八郎	S38	上村 恭一	S44	森定 学	H01	名田 久幸
S31	二宮 廸夫	S35	千草 晴夫	S38	山幡 一雄	S44	古川 弘成	H07	竹内淳一郎
S31	堀内 巖	S35	吉川 正男	S38	中野 眞雅	S44	参鍋 洋三	H09	高田 雄司
S31	宇佐美秀昭	S35	殿護 隆司	S38	原田 哲郎	S44	溝川 茂久	H09	大美佐知子
S32	高橋 孝三	S35	古家 章	S38	奥村 修二	S45	宮川 庄一	H13	多田 敏明
S32	西 幹雄	S35	南 直昌	S39	加藤 紘一	S46	塚本喜左衛門	H13	松尾元治郎
S32	星出 政夫	S36	野口征二郎	S40	井奥 博之	S47	井上 昭三	H23	古家 保男
S32	石原 靖造	S36	南方 弘	S40	清水 俊明	S47	松尾 正典		
S32	佐武 博司	S36	小野 重雄	S40	蔵岡 一彦	S47	前田 克己		
S32	今川 明	S36	中井 敏男	S40	島 征一郎	S47	川上 實		

(平成30年2月末日現在)